

令和8年度 大阪大学大学院高度副プログラム提案書

プログラム名	和文	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践		
	英文	Intercultural communication: theory and practice		
提案（幹事）部局	部局名	国際機構国際教育交流センター		
	実施責任者 （所属・職名・氏名）	国際教育交流センター・教授・村岡貴子		
連携部局	人文学研究科（言語文化学専攻）			
履修対象者	修士・博士			
修了要件	修了要件単位数		修了要件（単位数以外の修了要件がある場合）	
	8	単位以上	対象科目を履修して8単位以上取得すること(原則として1年で)。	
趣旨・概要	現代は、グローバル化、ボーダレス化の傾向がますます高まり、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっています。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もあります。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものです。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論と分析方法を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を取り上げて議論をしながら検討します。			
到達目標 （修了時に身につく能力）	本プログラムの目標は、授業での協働的な学習活動を通じた以下のものです。 ①多様性への自覚ができ、地球市民としての知恵を身につけ態度を養う。 ②言語や文化、専門分野等、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に他者の話を傾聴できる。 ③コミュニケーションの分析を通じ、他者への配慮について熟慮しつつ、正確で配慮ある発信方法を獲得する。			
カリキュラムの構成	専門分野にかかわらず、各人の興味関心に応じて以下の科目を自由に組み合わせて受講してください。 (1)「コミュニケーション論」：言語の学習・教育やコミュニケーションに関心がある人向け (2)「言語技術研究」：書記言語コミュニケーションやアカデミック・ライティングに関心がある人向け (3)「第二言語社会・文化研究」：言語政策、政治・社会に関心を持つ人向け (4)「応用言語学研究」：言語の分析に関心を持つ人向け			
履修資格・条件	特に資格等はありませんが、異文化への関心が高い人もあまり関心を持たない人も歓迎します。また、現在、異文化の人とのコミュニケーションに問題を感じている人や、将来多文化的な環境の中で生活する可能性や必要性を感じる人も、受講していただきたいと思います。なお、どの授業においても、受講者同士のディスカッションを歓迎します。また、受講者は自身の専門分野について、他の受講者に対し、可能な限り明確に、かつ平易に説明することが求められます。			
前提知識の目安	特になし。			
特記事項	授業は豊中キャンパスで行う。			

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数			開講年度 (毎年/隔年)	開講学期	開講部局	課程	備考
		必修	選必	選択					
452055	言語技術研究A			2.0	毎年	春～夏学期	人文学研究科	博士前期	②③
452056	言語技術研究B			2.0	毎年	秋～冬学期	人文学研究科	博士前期	②③
452045	コミュニケーション論A			2.0	毎年	春～夏学期	人文学研究科	博士前期	②③
452046	コミュニケーション論B			2.0	毎年	秋～冬学期	人文学研究科	博士前期	②③
452091	第二言語社会・文化研究A			2.0	毎年	春～夏学期	人文学研究科	博士前期	①②
452092	第二言語社会・文化研究B			2.0	毎年	秋～冬学期	人文学研究科	博士前期	①②
452139	応用言語学研究A			2.0	毎年	春～夏学期	人文学研究科	博士前期	②③
452140	応用言語学研究B□			2.0	毎年	秋～冬学期	人文学研究科	博士前期	②③